

「公民館は社会教育の中軸」 ちゅうじく

『野上町誌 下巻』（昭和60年6月発行）に、次のような文章がありました。少し長いですが紹介します。

第11篇 将来への展望

「野上町は学制発布の当初から、那賀郡（当時は那賀郡であった）の南部地方の中心地として、教育に熱心な町であった。その伝統は現在も続いていると言えよう。従って学校教育に関して施設設備は整備され、将来教育内容の充実と教職員の研修機会を拡大することによってますます教育効果は向上するものと思われる。

社会教育は人間性の向上をめざし、自主的・自発的意欲に基づく相互学習を基調とした生涯教育である。それを援助することは町の仕事であって、公民館は社会教育の中軸である。

本町の公民館を設備的側面から考察すると、読書・集会・実習・相談・展示・教室・広報等各種の機能を果たすための設備は備えられている。この設備を十分に活用する住民の自主的・自発的意欲を呼び起こす指導援助こそ重要な課題であろう。」（以上引用）

そして、文末には示唆に富んだ提言がありました。（表現を少し変更しています。）。

・・・「また、その担い手となる住民の心に、うるおいと喜びを感じてもらえることが重要であり、そのためにはスポーツの振興や、住民の間の心のふれあいを深め、香り高い芸術文化の育成に力を注ぐ必要がある。」・・・

「こうみんかん つれづれぐさ」16号でも紹介しましたが、中央公民館は40年前の昭和58年10月4日に開館しました。これを契機に公民館活動がさらに活発化し、平成元年に小川地区公民館、平成3年に志賀野地区公民館が新設、ハード面の体制が整いました。平成5年には、3公民館あわせて19講座、33サークルへと広がりました。令和4年現在、講座から発展したサークルが65にまで増加しています。



（ちぎり絵の皆さん 平成5年ごろ）

今も開館当時から40年継続して活動されているサークルがいくつもあり、利用者の皆さんの熱意と意欲に頭が下がります。
（令和4年10月8日）